



3年 | 深井 彩代^{ふかい さよ}さん [神奈川県立相模大野高等学校 出身]

■ セネガルでの体験を胸に、新たな学びへ

中1の時、父の出張について行き、セネガルに3週間滞在しました。特有の砂ぼこりが舞う荒地を目の当たりにしたことで乾燥地に興味を持ち、鳥大の国際乾燥地科学コースで勉強したいと思うように。高3の7月、東京・池袋で開催された進学相談会に参加。講義や専門科目は全部面白そうだし、「砂漠緑化」「農村研究・開発」といったキーワードにも強く引かれました。もしAOが駄目でも、推薦・一般入試も受けるつもりで志望校を鳥大に絞り、受験体制に突入。朝型に切り換えて毎日朝5時に起床。夜寝る前、勉強机の上に大学案内を開いて置き、目覚まし時計を止めた時目に入るようにして、モチベーションアップも工夫しました。

■ ディスカッションは多角的な見方で

課題論文のテーマは、1次選考合格後に提示されます。2次選考まで10日余りあるので、時間をかけてじっくり作成。グループ討論では、他の人の欠点を指摘するのではなく、周りを支えるように発言することを心がけました。話がずれたら軌道修正し、メリットばかりでなくデメリットな見方も提案したり。課題に対して様々な側面から意見を出すことができたので、合格の手応えを感じました。

大学2年次の夏、マレーシアへ英語研修に行きました。「th」や「R」の発音をマスター、相手に通じた時はすごくうれしかった！ 将来はまだ模索中だけど、セネガルのような乾燥地の農業開発援助者になれたらと思います、毎日頑張っています。

■ 平成28年度AO入試で求める人物像

募集人員(予定)：10人

【趣旨】太陽と水と土に根ざす農学を自ら主体的に学び、幅広い視野と創造性をもって社会へ貢献できる人材の育成を目的としています。このため、従来の学力試験による選抜方法と異なり、能力、適性、意欲、関心などを多角的に総合評価するAO入試を実施します。

いのちを育み環境を守る意志が強く、自ら積極的に学ぶ姿勢・チャレンジ精神・リーダーシップを有し、かつ次のいずれかに該当する人を求めます。

- 食料生産、自然環境修復あるいは生物資源の利用に関する研究・技術の開発普及に貢献することを志す人
- アグリビジネスあるいは環境関連産業において起業家を志す人
- 農学に関する知識・経験・実践力をもとに地域・国際貢献を志す人



宝石のような星空に感動！

鳥取は自然が豊かで、海も空も美しい。空気が澄んでいるから大学周辺でも星がきれいに見えるんです。地元では一度も見たことがないけど、何気なく見上げた瞬間に流れ星が見えて驚きました。

平成27年度AO入試 第2次選考 < 選抜のポイント、面接・論文等の出題例等 >

平成27年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。

平成28年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

なお、農学部生物資源環境学科における、AO入試の閲覧物はありません。

全体を通して求める力

生物資源環境学科では、自ら意欲的に学び、学んだことを実践に应用到できることを重視しています。高校時代に履修できる、あらゆる科目を積極的に学び、知力、体力、コミュニケーション力、気力、実践力の基礎を養ってください。

課題論文

「あなたにとって、主体的に学ぶとはどういうことですか?」という課題について、これまでの経験と入学後の自分を想定して、具体的に記述するものでした(1,000字程度)。第1次選考合格者は、事前に課題論文のテーマを与えられ、第2次選考当日に課題論文を提出するものでした。

グループディスカッション

1グループ6名に分かれ、「現在、世界で生産された食料の約3分の1(約13億トン/年)が食されることなく廃棄されています。日本でも(配布資料中の)図に示すように500~800万トン/年の食品ロスが出ています。このような現状をどう考え何をすべきかをグループで議論して、3つの対応策を提案してください。」というテーマについて、グループディスカッションを行いました(90分)。なお、グループディスカッションの役割分担(司会を含む)を受験者が決めて、進行を行いました。

個人面接

3名の面接官による、1人あたり25分の面接を行いました。また、基礎的な英語についても試問しました。